

東高通信

令和5年度 10、11月号

令和5年度 11月行事予定表

日	曜	学校行事等	学年・進路・生徒指導	生徒会・部活動関係
1	水	校内マラソン大会		
2	木	後期生徒会役員選挙、SC	共催マーク①(3年) 進研模試①(2年)	
3	金	文化の日		
4	土		共催マーク②(3年) 進研模試②(1・2年)	バスケット県大会(~5日) 柔道新人県大会(郡山市、~6日)
5	日			
6	月	避難訓練②		
7	火			
8	水	前期選抜募集要項webアップ SC	生徒会役員認証式 小論文模試(2年)	バドミントン新人地区大会(~10日)
9	木			
10	金			
11	土			バスケUI8リーグ(~12日、11日のみ本校会場)
12	日			
13	月		推薦委員会⑤ 2学年修学旅行結団式	
14	火	修学旅行①		
15	水	修学旅行②、SC		
16	木	修学旅行③		
17	金	修学旅行④	全統プレ(3年、~18日)	ハンド新人県大会(~19日) 卓球新人県大会(いわき、~20日)
18	土			
19	日			
20	月			
21	火	校務運営委員会⑩		
22	水	職員会議⑩、SC		
23	木	勤労感謝の日		
24	金			
25	土	土曜学習会		テニス県北秋季ジュニア選手権(~26日)
26	日			
27	月	期末考査①		
28	火	期末考査② 後期学校保健委員会		
29	水	期末考査③		
30	木	期末考査④		

なんでプロレス界に入ったか？100%、「食う」ためですよ。

3学年副担任 佐々木勝宏

元プロレスラー、長州力さんの名言です。『プロレス』を『教育』に置き換えると、自分の想いがピッタリはまります。正直に申し上げますと、強い憧れや高い志などを持つことなく、流されるまま「食う」ために教師になりました。夢や目標がある多くの東高生にとっては役立たないかもしれませんが、「みんながみんな、好きで選んだ仕事で食っているわけではない」という現実を知っておくことが、将来役立つ時が来るかもしれないと考え、キーボードを叩いている次第です。

大学4年生の6月、大学付近の中学校で教育実習を行いました(奇しくも今、自分の背後では教育実習生が本日実施される研究授業の準備をしています)。3週間にわたる実習後の感想は、「俺は教師には向いていない。俺にはとても無理だ」でした。さて、卒業後の進路はどうしたものか。就職活動なんてまったくやってないし、資格や特技もなければ、そもそもやりたいことがない。研究室の教授と反りが合わず、大学院への進学もない。そのような中途半端な気持ちのまま、大した準備もしないままアリの的に受験した福島県の教員採用試験は、当然のように不合格でした。

そうこうしているうちに秋にインカレが終わり、競技には一区切りがつかしました。「まあ、なんとかなるだろう」と根拠のない余裕をかましていましたが、そんな自分に柔道部の監督から青年海外協力隊募集のお話をいただきました。忘れもしない11月29日、「佐々木、お前もここで外国人柔道家の受け入れの仕事をやって世界を見てきたら。今度は自分が海外へ行って世界を感じてきたらどうだ？」との監督の言葉に柄にもなく奮い立ちました。帰宅して電話で郷里の父親を説得し、「いざ必要書類を」と募集要項に目を通したところ、書類の締め切りは11月30日。翌日、「先生、ぜひ応募したかったのですが、書類の締め切りが今日なので間に合いません」と(涙目で)訴えました。監督には「そうか、今回は縁がなかったんだな」と他人事のようにサラリと流されました。あまりにもあっけない幕切れに、茫然自失のあまりキレることもありませんでした。

年が明け、卒業論文をお情けで通してもらいなんとか卒業の目途は立ちました。依然として就職は決まっていません。そして迎えた3月、福島県教育委員会から講師依頼の連絡があり、非常ベルが鳴っていた自分は「今しかないぞ！」とばかり二つ返事で受諾したのです。

教師として帰るべき「初心」に長い間コンプレックスを抱いていた自分にとって、長州さんの言葉は救いとなりました。タイトルの言葉の後、長州さんは続けます。「(前略)どんな世界であろうが、一番大事なのは自分がその世界に入ってよかった、と思えるまでやることじゃないですかね」と。「食う」ためにレスラーになった長州さんはデビュー後数年間プロレスという仕事を淡々とこなし、「しょっぱい試合」しかできずに鳴かず飛ばずの日々が続きました。しかし、ある時プロレスの面白さに気づいてからというものファイトスタイルが一変し、その迫力や本気がファンのハートを掴んで『革命戦士』として大ブレイクします。その後の長州さんの活躍はみなさんご存じの通りです。どんな動機で選ぼうと、仕事との向き合い方で人はいつでも変われるんですね。自分も、覚悟を決めて目の前の生徒や仕事に真摯に向き合っているうちに、教師の面白さに気づくことができました。もちろん辛いことや苦しいことも少なくないのですが、それはどの仕事も一緒です。

最後に、これからみなさんが遭遇する人生の分岐点において、最善の選択ができるよう祈るとともに、たとえどんな理由で選んだ道であっても、「やりがい」にたどり着くまでとことん取り組んでみることをお勧めしてファイルを閉じます。

「情報を制する者は戦いを制す」

2学年担任 三瓶 史絵

2年生の皆さん、来月はいよいよ修学旅行ですね。準備は万端ですか？京都の自由散策で何を着ようかな・・・と悩んでいる人も多いでしょうか。11月の京都の平均気温は福島に比べてどうでしょう。何も考えずに服を選んでしまうと、暑すぎたり寒すぎたり、困ることがあるかもしれません。

実り多い旅行にするためには、入念な準備(下調べ)が欠かせません。どのルートで散策すると効率的？電車またはバスの時刻表は？入場料はいくら？お昼はどこで食べたい？などなど。

修学旅行の1日目は広島で平和学習です。こちらに行く前にしっかり準備(事前学習)をしましょう。知識や自分の考えを持って、広島平和記念資料館や平和記念公園を訪れてください。きちんと事前学習をすれば、深い学びができます。

さて、準備や下調べが大切なのは旅行に限ったことではありません。部活動においても来たるべき大会やコンクールに向けて入念に準備をしているのではないのでしょうか。対戦相手が決まれば、相手のことを調べて対策をたてていませんか？

もちろん受験においても入念な準備(下調べ)が欠かせません。自分が興味のある内容を学べるのはどの大学？一般選抜、総合型選抜や学校推薦型選抜など、自分の得意や強みを活かせるのは？情報は待っていて降ってくるものではありません。自分で積極的に掴みに行きましょう。

孫子いわく”彼を知り、己を知れば、百戦して殆うからず”(情報を制する者は戦いを制す)



「アナログでもデジタルでもできることはデジタルで」

1学年担任 赤城しのぶ

私は、なんでもデジタルでできることはデジタルでやりたいと考える。テクノロジーの進化は目を見張るものがあり、「こんなことがこんなに簡単にできるなんて」という驚きと喜びに満ちている。授業や校務で使えるWeb上のツールについては、かなりの時間を費やして学んでいる。家族にあきれられるほどに。そのほとんどはオンラインでのセミナーに参加して学んだものだ。私がこの数週間に参加したオンラインセミナーを挙げてみる。『学校の未来図』～グローバルティーチャー堀尾先生に聞く国際理解教育～ デジタル教材勉強会 in Sendai NEO、生成AIの教育利用 ファーストステップ GEG Toyama Meeting #22 Google スライドに最近追加されたもの！ Kami Heroes in Japan - 神アップデートdeショー すべて夜9時頃からや土日の午後などの開催である。これらの中には、ICT 関連の企業が主催しているものや、Google Educator Group(GEG)と呼ばれる団体で主催しているものがある。私自身もGEG Fukushimaの共同代表を務めており、月に一度、金曜日の夜10時から、お隣り茨城県のGEG Hitachiの先生と一緒にイベントを開催している。デジタルの魅力は何といてもシェアとコラボレーションの容易さにある。それは都会と地方との距離だけでなく、海外との距離も簡単に超える。GEG Nevadaの先生の読書会に参加したり、イスラエルの教室と自分が教える教室をZoomでつないだりしたことはとても楽しい出来事だった。神戸のインターナショナルスクールでTech Coachをしている先生とは2年くらいオンラインで頻繁にご一緒していたが、ついこの夏にGoogle六本木オフィスで実際に会うことができた。彼女が語るインターナショナルスクールの環境や授業の様子は、日本国内にこんな学校が存在するのかわかると思われることばかりだ。日本の教育のICT利用は世界的に見ても低いという統計を目にする。国全体としてもデジタル化が遅れていたことはコロナの時に明らかになった。しかし、これからデジタル化の方に進むことは間違いのないことだろう。大学生の我が家の娘二人の話を知ると、授業の登録やシラバス閲覧、レポートの提出はもちろん、さらに試験の多くもデジタルで行われており、紙を提出する機会はあまりないようだ。授業中のノートもPCやタブレットで取る学生も多いらしい。高校も変わっていく必要があるだろう。これからの時代を生きる生徒のみなさんには、デジタルが開くイノベーションの時代に対応する力を身につけてほしい。